

安全講習会のお知らせ

片倉啓雄

工学を修めて社会に出る者は、社会の安全・安心に貢献する責務を負います。そのためにはまず、研究室での実験を安全に行うことにより、安全・安心に対する感性を磨いておかなければなりません。

この安全講習では、安全・安心に対する考え方、危険を予知し対策を講じるためのポイントを講義した上で、どのラボでも使用する基本の機器・試薬について、実践的・実用的な安全講習を行います。

- 【日時】 2010年5月19日(水) 14:40~17:00
- 【場所】 202 講義室
- 【対象】 学部4回生、大学院生(実験に携わる方全員を対象とします)
- 【内容】
1. 安全安心のために知るべき考え方とコツ
 - (1) 安全を保証してもらう立場から安全を保証する立場へ
 - (2) 危険検出思想と安全検出思想
 - (3) 家電製品と研究用機器の違い
 - (4) 試薬、操作の意味を理解する重要性
 - (5) 危険を予知するためのツボ
 2. 機器・試薬の安全な取扱い
 - (1) ガラス器具
 - (2) クリーンベンチ
 - (3) オートクレーブ
 - (4) 電子レンジ
 - (5) ウォーターバス・インキュベーター
 - (6) 遠心分離機
 - (7) えっそれって危ないの？
 - (8) 特に注意を要する試薬

次の機器の記述は全て正しくありません(危険です)。どこに問題があるでしょうか？

- ・ バイアル瓶のフタが開かないときは、輪ゴムを巻くと開けやすくなる。
- ・ 電子レンジで寒天を溶かすときは、沸騰して吹きこぼれないようにフタをしっかり閉める。
- ・ オートクレーブのフタは表示温度が80℃以下になってからあければ安全。
- ・ 乾燥機の温度を高く設定すると、場合によっては火災の危険があるが、50~60℃程度に設定すればその危険はない。
- ・ フロート式の安全装置がついていればウォーターバスを終夜運転してもよい。
- ・ 遠心分離する際には、重さのバランスを取らなければならない。